

令和2年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン令和2年(社会教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1) 図書館サービス推進	B	<ul style="list-style-type: none"> 窓口や電話での図書貸出やレファレンスに係るサービスの向上に努める。 図書館行事や図書利用について、ホームページ・「図書館だより」等を活用した情報提供、情報発信の促進に努める。 学校や幼稚園・保育園等の他団体との連携を図りながら、更なる読書並びに本に親しむ環境づくりの推進に努める。 新型コロナ感染拡大防止の対策をとりながら、市民サービスの観点から各種行事や事業を実施する。ボランティア団体等、他団体や地域との連携を強化し、市民参加による図書館運営を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス研修会等の機会を活用することで、レファレンスの質の向上、窓口サービスの向上に繋がった。 ホームページを適宜更新し、図書館だより等も活用し迅速かつ広範な情報発信し、情報提供に努めることができた。 緊急事態宣言時の臨時休館中も継続して、学校や幼稚園・保育園等への配本を行い、関係団体との連携を深め、読書に親しむ環境づくりの提供ができた。 10月の嬉野市読書活動推進月間に、私のイチオシ本のPOPを募集し、募集を契機に個人や家庭での読書活動推進に繋がった。おとなのスタンプラリーを開催し、読書量の増大、読書に親しむ環境づくりの提供を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所閉庁時のHP等での広報が難しいので、リアルタイムでの情報更新に課題がある。 今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、幼稚園・保育園での巡回図書が実施できていないため、本の貸出体験の機会喪失等、読書環境の提供が十分にできていない状況である。 行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながら感染状況を考慮し、できる限り開催してきたが、今後の開催手法等どういった形で行っていくのか考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報等については担当部署との連携を図り、迅速な対応等行えるよう検討する。 新型コロナウイルス感染対策でのイベント等の開催についての注意等考慮しながら、今後のイベントや事業等の在り方を検討する。
(2) 文化財の保存と活用	B	<ul style="list-style-type: none"> 市史編纂室との連携を強化し資料の収集・調査に努め、新指定文化財候補に繋げる 旧長崎街道が日本遺産「シュガーロード」に認定されたことを記念した企画展を開催し、市民が歴史や文化に触れる機会を通し意識向上に繋げる。 市指定無形民俗文化財の保存及び後継者育成について支援を行い、伝統文化の継承に繋げる。 今年度予定の重要遺跡の開発は事業者との連携を密にし、埋蔵文化財の保存・保護に努める。同様に民間の開発行為についても乱開発防止に努める。 今年度予定の家屋の修理及び公開活用施設的设计委託を計画的に遂行し、嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区の景観に配慮した長期的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 館内に市史編纂室があることで、文化財全般について専門的な助言等を得られ易くなった。新指定文化財候補については情報を共有し開拓していきたい。 日本遺産「シュガーロード」の認定で塩田津の町並みや逸口香、金華糖など構成資産が改めて注目された。うれしの茶交流館チャオシルで3月頃を目標に企画展開催の予定。(出張展示) 市指定民俗文化財「綾竹踊り」は、今年度はコロナ禍の影響で練習や奉納の機会が無かったため保存継承のための補助金を辞退されたことは残念であった。 今年度の遺跡の開発は、民間の確認調査以外に、県道工事や農業政策課の「ハウス団地開発」に伴う発掘調査があり業務多忙となった。 伝建事業は家屋の保存修理2件および公開活用施設新築のための設計委託を実施している。年度内の事業完了を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から国の天然記念物「嬉野の大チャノキ」再生事業にも取り組んでおり業務量が増えた。現在の職員数では新指定文化財候補の資料収集、企画展の準備開催等に要する時間を取ることが難しい。 日本遺産認定を機に塩田津伝建地区や砂糖文化について市民に関心を持ってもらえるような工夫、周知が必要。 コロナ禍で奉納や披露の機会が減った。終息が不透明であり併せて後継者不足、高齢化の不安が保存会でも高まっていると危惧する。 県道整備に伴う発掘調査には職員が3か月ほど拘束されるため、他の業務にも支障が生じている。 後継者不在の家屋、空き家が増加傾向にある。家屋修理の希望があっても見送られるケースが年々増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の増員要望及び業務体制の改善が必要である。 企画展の開催にはマンパワーが必要。人的な体制強化を図っていく。 綾竹踊り保存会と連携をとり、将来的な芸能継承に繋げたい。 企画政策課が導入予定の検索システムに、埋蔵文化財包蔵地の情報も取り込んで貰い、事務の簡素化を図りたい。 町並み保存会や庁内関係課との協力を強化し、所有者の意向をふまえた修理や空き家の利活用を検討したい。
(3) 文化の振興と環境づくり推進	C	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベント等活動を行い、さまざまなジャンルの演目を身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を行う。また地域における各世代間の交流を基に、嬉野ならではの伝統文化の継承を図る。 組織整備をすることにより文化振興基本計画に基づき文化振興を推し進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会文化会館を拠点に音楽や演劇など一部公演したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止や延期となり十分に文化振興ができなかった。また市民の団体やサークルの発表が十分にできなかった。 小学生を対象に伝統芸能継承のための教室を開き地域の歴史や芸能体験の学習を行った。また地域の伝統を守る大人とそれを継承する子どもたちとの交流が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度公演の来場者では、市外の観客が極端に少なくなり、集客への作業が重要である。 市民団体やサークルが十分な活動ができなく、発表の場を提供する考慮が必要である。 伝承芸能継承事業は一部の子どもたちへの体験はできたが、全体的に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 公演開催に向けて十分な感染防止対策をとった上で、SNSやメディアを通じて広報していくことが重要である。 市民団体やサークルの発表をWEB上で放映する機会をつくる。 個別地域の活動は行いながら、市全体の伝統芸能を学ぶ機会をつくる。
(4) 次世代を担う青少年の育成	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての育成事業を展開し、青少年の豊かな人間性を育む。また子ども同士の交流を深めるため、ジュニアリーダーを育成し、青少年の健全育成の向上を図る。 地域全体が子どもたちとかかわりを持ち、地域で子どもたちを見守る環境の整備を推進する。 放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は1事業のみの実施となったが、高校生にジュニアリーダーとして参加してもらい子どもたちとの交流が図られた。 各地域と連携して行うラジオ体操は実施できなかったが、登下校中の子どもたちへの挨拶や声かけなど行ってもらった。 放課後子ども教室では地域の高齢者の指導により、異世代間の交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ジュニアリーダーの高校生が参加することによって、子どもたちの楽しみ方が違った。 放課後子ども教室では、一定の成果は見えたが、他の事業でも取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な感染防止対策をとった上で、できる限り多くの事業を実施する。 他の放課後子ども教室との連携を図り、事業を多様化する。
(5) 生涯学習のまちづくり推進	B	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会を提供し、誰もが参加できる生涯学習へのきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。 新たな講座の内容を提供し、多くの市民が参加できるような機会を設ける。 自主的なサークル活動や地域活動を促進するため、出前講座の内容や講師陣の充実を務め、より幅広い市民の学習活動の支援を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者教室の一般教養講座はすべてテレビ放映となり、個々に視聴してもらった。 高齢者の趣味講座は、新しい講座を多く紹介した。また昨年までの趣味講座はサークルへ移行してもらい活動している。 各地区の公民館長を通じ出前講座を案内したが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため2件にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般教養講座はテレビ放映のため、視聴者の反応がわからなかった。 趣味講座への参加が多く、さらにあらゆる講座の提供が課題である。 またサークルの移行に伴い、自主運営ができていないサークルの相談もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もテレビ放映が続くが、積極的に視聴してもらえよう案内が必要である。また視聴しての感想などを集約する必要がある。 サークルについては会員募集を行い、多くの会員で運営するような体制を構築する。 市民全体に出前講座の広報を実施し、この活動を広く市民に伝える。
(6) スポーツのまちづくり推進	C	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種大会や体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。 子どもたちへのスポーツに対する関心を持つような事業を展開し、また日頃運動不足の中高年齢者に向けた健康づくり教室などを関係各課と連携し事業を推進する。 スポーツイベントの内容を充実させ、スポーツをするだけでなく、見ても楽しめるような機会を作ることでスポーツの関心を高める。また、令和5年開催の国民スポーツ佐賀大会に向けて市民上げての取り組みを行い、嬉野市の魅力を発信することも踏まえ、観光関係機関と連携し、市全体の知名度アップや地域活性化に努める。 市民が日常生活の中で気軽にそして快適に運動を楽しめる環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどのスポーツ教室等が中止となった。スポーツメーカーと連携しウォーキング教室を実施し市民の健康づくりに寄与した。 子どもたちへスポーツに関心を持つような事業にスポーツチャンバラを取り入れ、各放課後児童クラブで普及啓発を図った。 スポーツイベントは1事業にとどまったが、プロスポーツを見ることで、市民へスポーツに関心を持ってもらうことができた。また観光、農政部署と連携を図り、県内外に嬉野市のPRができた。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ教室は成人を対象にしているが、実施時間帯を工夫し日中、夜の教室を行ったが、まだ参加者が少ない。また参加者には健康面でのケアをあわせて行う必要がある。 子ども向け事業の取り組みは学校の協力が不可欠で全校による取り組みができていない。 イベント事業については市民がスポーツに関心を持ってもらうことが重要であり、あわせて嬉野市のPRをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ教室については、日時、時間帯などを工夫し参加しやすい環境をつくる。また健康づくり課、福祉課とも連携し健康づくりのケアを行う。 子ども向け事業で放課後児童クラブに限らず、学校全体で取り組むよう働きかけを行う。 イベント事業については、観光、広報、農政など他部署との連携を図り、スポーツイベントを通じて嬉野市の魅力を発信する。

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<p>①(1)について、コロナ禍で図書館の役割はさらに大きくなっています。図書館に来なくても図書の予約・検索ができる仕組みや、著作権フリーなものは、自宅からも閲覧可能にするなど、今後、新しい図書館の形を模索していただきたい。</p> <p>②(2)について、日本遺産「シュガーロード」の認定に伴う企画展や伝統芸能の奉納や披露などネット開催も選択肢の1つになるのではないかと思います。文化財の発掘調査については、業務量全体の整理が必要かと思えます。</p> <p>③(3)について、コロナ禍も急に沈静化するとは考えられないので、すべて中止するのではなく、各種イベントをケーブルテレビやネット配信し、自宅で見ることができるようになりました。さらにネット参加できるようにするなど検討してみてください。</p> <p>④(4)について、ジュニアリーダーの育成は、大変重要なことだと思います。併せて他の子どもたちにも還元できるしくみも検討してください。</p> <p>⑤(5)について、教養講座のテレビ視聴だけでなく、双方向参加型のネットを使った講座も検討してはどうでしょうか。コロナ禍で高齢者も一層出かけることが少なくなっているので、出前講座をコミュニティ単位の少人数で実施することも検討してください。</p> <p>⑥(6)について、大人向け、子ども向け、家族向けを整理し、スポーツの種類、規模など開催内容方法について、コロナ禍だから臨時的なのか、継続的に行うのかを整理してください。</p>	B

指摘を受けての改善点

①(1)について、図書の検索については図書館のHPの蔵書検索で検索できます。貸出中の資料の表示もされます。また、佐賀県内の図書についても、図書館HPの佐賀県内図書横断検索で検索できます。図書の予約については、システム上は可能ですが、窓口での予約とのタイムラグ等の事情により、機能を付加していない状態です。今後、利用者様からのご要望等を見ながら付加していくことを検討していきます。著作権フリーの書籍については、青空文庫というインターネット上のサービスがあり、図書館のHPからリンク先へアクセスできるように準備していきます。

②(2)について、日本遺産「シュガーロード」認定に伴う企画展を観光商工課との共催で3月に開催、これに併せて市内の菓子業者による嬉野市の新スイーツがお披露目される予定です。日本遺産認定により市内の横の連携が強化し、更にコロナ禍で落ち込んでいる商業の活性化にも繋がると期待されることから、今後も協力体制を維持しつつ文化財の保存・活用に繋がるよう努めたいと思います。また、今年度は行事の中止が相次ぎ、ほとんどの伝統芸能が披露されなかったことを教訓とし、今後は映像での記録保存も重視し、映像配信から保存伝承、後継者育成へと波及するような取組みができればと思っております。文化財の発掘調査については、費用、時間、人材が必要なことから、担当課だけでなく広域の調整が必要と考えます。

③(3)について、開催時のコロナ禍の状況を見ながら、できる限り開催をしていきたいと思えます。また公演内容によっては、テレビやSNSなどに放映することができない公演もありますので、出演者とも協議をしながら広報に努めたいと思えます。

④(4)について、子どもたちのイベントに合わせ、市内の高校生など参加してもらえるよう学校側に協議をしたいと思います。参加している子どもたちへ、近い年代の方の交流は思い出になると思っていますので、あらゆる場面で活躍していただきたいと思えます。

⑤(5)について、少人数でできる講座などは是非参加したくなるような、さまざまな講座を紹介していきたいと思えます。

評価4段階	A 達成(80%以上)
	B ほぼ達成(51~79%)
	C やや不十分(50~21%)
	D 不十分(20%以下)